



# Weekly Market Report

Jun 1, 2026

FX, JPY Interest Rate, Topics

## 1. 為替相場概況

介入警戒水準ながらも、ドル高・円安地合い継続か？！

### USD/JPY (1週間の値動き)



### コメント

(出所) Bloomberg

先週のドル円相場は、ドル高・円安優勢。米・イランの軍事衝突報道を受けて「有事のドル買い」優勢。158円台後半から159円60銭台まで上値を拡大するも、米・イランの60日間の停戦延長合意を受けて、ややドル買い一服。159円台前半で越週。今週のドル円は、中東情勢と米経済指標に一喜一憂しながらも、総じて底堅い展開を想定。週末、トランプ米大統領は米・イランの戦闘終結案の合意先送りを表明。ホルムズ海峡の封鎖状態が長期化し、世界的なインフレ懸念による金利上昇圧力がかかる中、ドル高地合いが継続するとみている。4月末から実施された円買い介入の効果は8割近く消失しており、今日日銀会合での利上げ観測が強いなか、根強い円安圧力も継続しそうだ。インフレ懸念が高まる米国において、今週公表の米雇用統計などから、雇用・景気の底堅さが確認できるのか注視しておきたい。(市場商品部/CDG)

### 今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
6/1(月)	(米国) 5月ISM製造業指数	53.0
6/2(火)	(米国) 4月JOLTS求人	685万人
6/3(水)	(米国) 5月ADP雇用統計	11.8万人
6/5(金)	(日本) 4月実質賃金総額(前年比)	+1.7%
6/5(金)	(米国) 5月雇用統計-失業率	4.3%

### USD/JPY (5年間)



### 今週のレンジ予想 (USD/JPY)

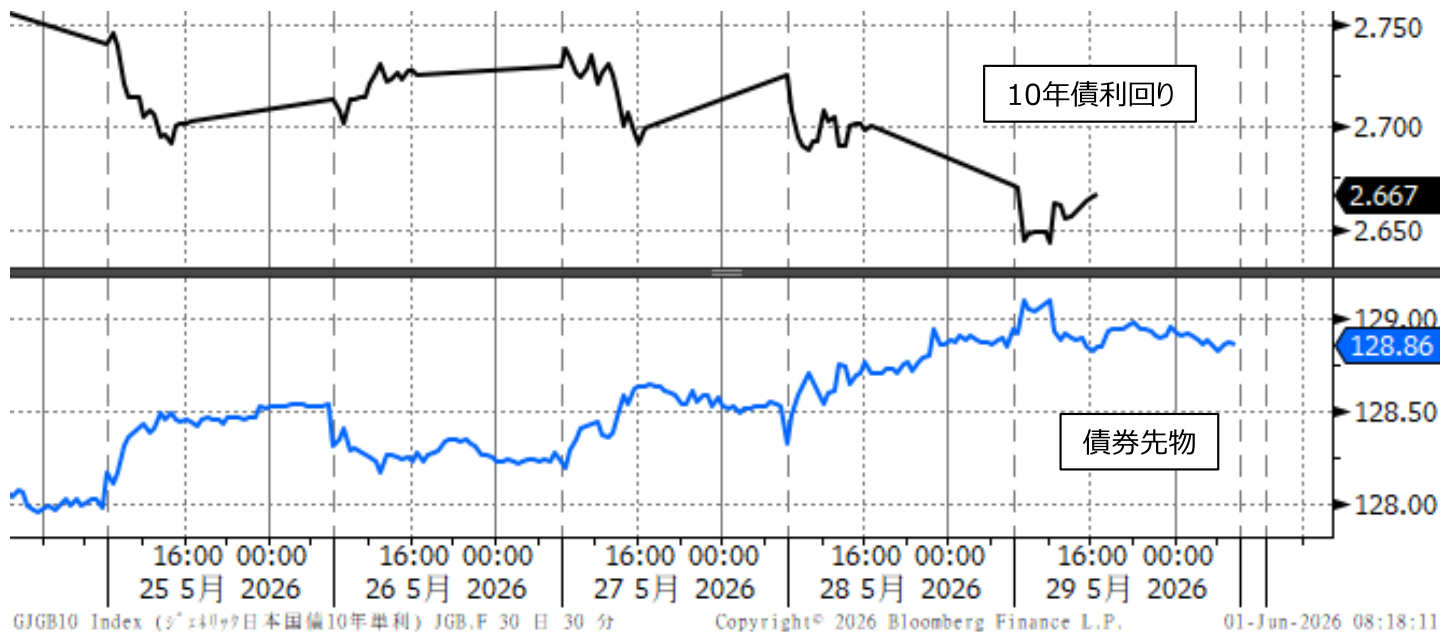
(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
鈴木万里子	158.90 – 161.00	3日の植田総裁講演に注目。ハト派姿勢見られればドル円は一気に売られ、介入が意識されている160円突破の可能性も。
松榮俊樹	158.50 – 160.00	米国・イランの和平交渉は難航しており、為替介入の警戒感から依然として上値も重く、引き続き値動きは限定的か。

## 2. 円金利相場概況

長期金利は大幅低下。新たなトレンドは中東問題から次回金融政策決定会合の方針へ。

### 10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



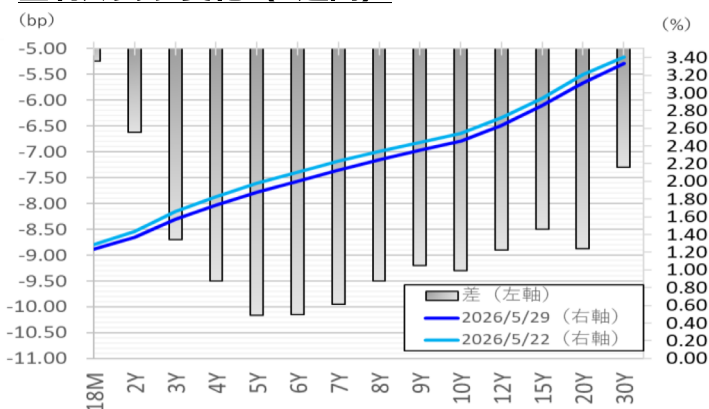
Copyright© 2026 Bloomberg Finance L.P. 01-Jun-2026 08:18:11 (出所) Bloomberg

### コメント

先週の円金利は大幅低下。中東情勢のみならず、日本のヘッドラインにも反応し、市場のトレンドがやや変わりつつある動きであった。週初は米国とイランの戦闘終結に向けた協議進展への思惑から米原油先物相場が下落し、原油高を背景としたインフレ懸念が和らいだことで円金利は低下。翌日は反動から小幅に金利上昇したものの、週半ばに日銀植田総裁が「賃金・期待・需要や為替レートに依存して非常に異なる影響をもたらし得る」、「中央銀行は原油価格を単独でみるべきではない」と発言したことが、利上げを織り込ませる発言ではなかったと受けとめられ、円金利は再度低下。週末は米国とイランの最終合意が近いとの観測が高まり米金利の一段低下につられ、円長期金利も低下。10年国債利回りは週間で▲10 b p 程下げて2.66%程で越週した。

今週は3日に予定されている植田総裁の講演に注目。次回BOJでの市場の利上げ織り込み度は7割以上と高いものの、発言次第では債券が大きく売られ一段の金利上昇となる可能性と、逆に利上げ見送りを仄めかせば今の織り込み分が剥落する恐れもあるため、注視したい。(市場営業部/鈴木)

### 金利スワップ変化（1週間）



### 10年円金利スワップ推移（5年間）



Copyright© 2026 Bloomberg Finance L.P. 01-Jun-2026 08:19:02 (出所) Bloomberg

### 今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
加藤里奈	2.63% - 2.75%	米国とイランの戦闘終結観測が高まったが、BOJ利上げの可能性が高く金利は上昇する展開か。植田総裁の発言は注目材料。
鈴木誠哲	2.57% - 2.75%	今週は植田総裁の講演に着目。同氏の発言による中期ゾーンを中心とした金利の上下動には警戒したい。

### 3. 今週のトピックス

#### 英ポンド相場動向

**BOEの利上げ期待はあるものの、英国政治に対する不透明感から英ポンド相場は上値の重い展開か**

##### <英国経済の状況>

英国の5月購買担当者景気指数（PMI）は、総合が48.5と好不況の分かれ目となる50を下回り、前月の52.6から悪化する結果となった【図表1】。

製造業は53.7と横ばいを維持したものの、サービス業が47.9と前回の52.7から大幅に低下しており、イラン戦争によるインフレ懸念がサービス業の景況感悪化につながったとみられる。

英国景気については3月の失業率が2月の4.9%から5.0%に上昇するなど雇用市場への懸念が高まりつつあるほか、4月CPIは総合、コア指数ともに前月比+0.7%と加速が続き、総合指数の前年比は+2.8%となっている。

IMFによる2026年GDP成長率見通しが+1.0%と3月予測の+1.3%から下方修正されていることもあり、スタグフレーションへの懸念が強まってきている状況といえるだろう。

##### <イングランド銀行の金融政策と金利動向>

イングランド銀行（BOE）は、4月の金融政策会合で政策金利を3.75%に据え置いた。声明文ではインフレの上昇リスクと景気減速リスクの両方が示されており、ベイリー総裁も「中東情勢を踏まえれば、現在の政策金利は妥当な水準」と発言するなど利上げのタイミングを慎重に見定める姿勢が表明されている。市場では11月会合からの利上げ再開が見込まれており、年内の利上げ回数は1-2回とみられている。

英国金利については、利上げ期待に加えて財政支出拡大への懸念から2年、10年金利はほぼ平行に上昇し【図表2】、長短スプレッドは横ばい推移となっている。

##### <英ポンド相場の見通し>

英ポンドの対ドル相場は、1月に2021年以来となる1.3868の高値を付けたが、イラン戦争の開始以降はドル買い地合いの中で上値の重い展開となっている。

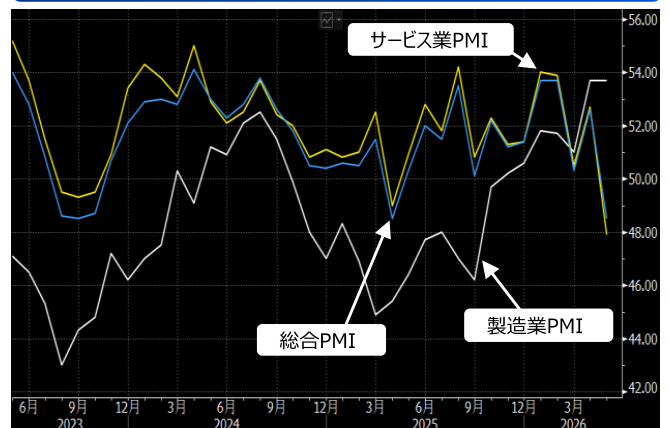
英国では地方議会選挙で与党労働党が大敗したことから、スターマー首相への辞任圧力が強まっており、次期首相候補のアンディ・バーナム氏（マンチェスター市長）が、拡張的な財政政策を志向しているとの見方が英国の長期金利上昇とポンド売りの材料となっている。ただし、スターマー首相は現時点で首相職を継続する意向を示している。

当面の英ポンド相場は、BOEの利上げ期待が下値を支えるものの、政治的な不透明感やスタグフレーションへの懸念が上値を抑制しそうだ。対ドル相場の予想レンジは200日移動平均線のある1.3400どころを中心とした1.3000-1.3800、対円相場はドル円での為替介入への警戒感から208.00-217.00円のレンジで上値の重い推移が見込まれる。

シカゴIMMの投机筋ポジションについては、英ポンドのネットショートが6万枚程度となっており、投机筋のポンドに対する消極的な姿勢は当面続きそうだ【図表3】。

（チーフ・マーケット・ストラテジスト／諸我 晃）

【図表1】英国の購買担当者景気指数（PMI）



（出所:Bloomberg）

【図表2】英国の政策金利と2・10年金利（%）



（出所:Bloomberg）

【図表3】英ポンドドル相場とシカゴIMMポジション



（出所:Bloomberg）

## ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会